

草刈や畑仕事等ができる
体力と筋力をつけ

住み慣れた地域で 一人暮らしができる

事例の ご紹介



Dさん

60代男性

〔要介護：5〕

プロフィール

重度の肺炎後廃用症候群にて約8ヶ月の入院生活後、すぐに住み慣れた田舎へ帰っての生活が難しく、協力の得られる親戚の近くへアパートを借りて一人暮らしをされる。しげい通所リハビリテーションを3時間で週3回利用。

介入後の経過と効果

通所リハ初日には階段昇降2足1段で手すりを持って移動し、歩行時には杖を使用。長距離の移動では息切れが見られるため、頻回に休憩が必要だった。繰り返し目的動作の練習を実施することで、連続で30分以上散歩が可能となり、杖も不要、重たい荷物を持つての移動も可能となった。また階段昇降では手すりを持たずに1足1段にて、連続で3階分程度は息切れなく実施できるようになった。通所リハビリテーション開始から7ヶ月後、住み慣れた田舎で一人暮らしができるようになり、通所リハビリテーション事業所を卒業。



工夫した点

- ▶ 個別リハにて、田舎の自宅に帰って想定される草刈動作や重たいものをもつての移動等本人のイメージしやすい動作練習を繰り返し実施したこと。
- ▶ 個別リハ以外の時間にできる自主トレを指導し、空いた時間での実施を促し、指導修正を繰り返したこと。
- ▶ リハビリテーション会議だけでなく、電話等でケアマネジャーなど関係者と密に情報共有することで、本人の田舎へ引っ越しすることの不安点を解消するためのフォロー体制の準備や自治体のサービス内容の提供等が実施できたこと。

